

## 日本と関係の深い水産物：宝石サンゴ

3月13日～25日、第15回ワシントン条約締約国会議がカタールのドーハで開催されています。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信しています。会議に関する正確な情報の入手や取材にお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

サンゴ科全種 *Coralliidae* spp. (*Corallium* 属全種と *Paracorallium* 属全種) を附属書Ⅱに掲載

提案  
21

(提案国：スウェーデン\*および 米国)

トラフィックはこの提案に賛成している。

★宝石サンゴ (*Corallium* 属全種) を附属書Ⅱに掲載しようとする提案は前回会議でも議論されたが、結果否決された。

\* on behalf of the European Community Member States acting in the interest of the European Community

## 古くから人びとを魅了してきた宝石サンゴ

- ・ローマ時代には、地中海で採取されたベニサンゴがビーズに加工され、北アフリカやインドへ交易されていた。
- ・用途は、宝飾品や工芸品など。
- ・粉は、インドや中国などで伝統薬として利用されることもある。

FAO(国連食糧農業機関)によると、近年ではイタリア市場で流通する約7割は、日本や台湾からの太平洋産宝玉石サンゴ。



© Michel Gunther / WWF-Canon

サンゴ科 *Coralliidae* とは？

分類：刺胞動物門八放サンゴ亜綱  
ヤギ目サンゴ科

サンゴ科 *Coralliidae* spp.には約30種  
世界の熱帯、亜熱帯、温帯海域に分布  
日本近海の分布深度は、100～300m

遅い成長・成熟、長い寿命

アカサンゴ *Paracorallium japonicum*

: 0.34～0.50mm/年(成長速度・直径)

モモイロサンゴ *Corallium elatius*

: 0.26～0.28mm/年(成長速度・直径)

出典：岩崎望編2008『珊瑚の文化誌』

## 宝玉石サンゴとは？

サンゴ科 *Coralliidae* に属し、宝飾品などに利用されるサンゴの総称。太平洋産アカサンゴやモモイロサンゴ、地中海産ベニサンゴなどがある。

➡ 過剰採取に影響を受けやすい生活史

## 採取量が減少がみられる

地中海と西太平洋で採取されている。生息域全域で、群生の減少・消失、群生サイズ縮小や若齢化、採取量の減少がみられる。

例：

太平洋産のアカサンゴの採取が1983～2006年にかけて約80%減少。

## 日本と宝玉石サンゴ

日本は、世界でも主要な原産国  
アカサンゴ、モモイロサンゴ、シロサンゴ *Corallium konojoi* など  
国内のさんご漁業は、19世紀後半にはじまる。高知沖で漁場が発見。  
明治期にはイタリアから買いつけにくるなど、日本産の宝玉石サンゴは国際市場でも注目される。



© TRAFFIC East Asia-Japan

## 現在の漁獲

漁業調整規則にもとづいた知事の許可制漁業(高知県、鹿児島県、沖縄県など)。

主な漁法は、サンゴ網を使った底びき網漁と潜水艇による選択的採取。

## 国際取引の規制

中国が宝玉石サンゴ4種をワシントン条約の附属書Ⅲに掲載(2008年7月)

- ・モモイロサンゴ
- ・アカサンゴ
- ・シロサンゴ
- ・*Corallium secundum*

トラフィックジャパンの  
ここに注目

日本とも関係の深い  
もうひとつの水産物

COP15特集ページ <http://www.trafficj.org/cop15/>

**TRAFFIC**  
the wildlife trade monitoring network

トラフィック イーストアジア ジャパン  
(略称：トラフィックジャパン)  
TEL:03-3769-1716 E-mail: traffic@trafficj.org